

民間経験者採用 職務経験論文対策講義

担当 市岡雅史

☆ 今日の内容

《経験者採用試験における論文対策について》

- ① **どうしたら読みやすく分かりやすい論文が書けるか**
- ② 公務員に求められる文章力とは何か
- ③ 経験者論文は、どこが一般論文とは違うのか
- ④ 出題例から読み解く論文の書き方
- ⑤ 論文試験に向けて準備の仕方・勉強の仕方
- ⑥ 参考論文の紹介
- ⑦ 添削を受けよう
- ⑧ 課題論文、論点整理の仕方・ポイントのまとめ方
- ⑨ 演習

◀◀ 体験パックはコチラをご覧ください

Ⅰ 論文の基本 読みやすく分かりやすい論文を書く

論文は題意を的確にとらえ、適切な主張と内容をしっかりした構成によって論述する。これが基本です。論理性・表現力・構成力・主張の妥当性といったことが評価要素になります。

これは一般論。このような理解は、一応必要ですが、もっと大切なことは採点者にできるだけ良い印象を持ってもらえる論文を書くということです。つまり、論文全体が読みやすく理解しやすい、内容がなるほどといった印象の論文。こういう論文なら公務員としての適格性ありと思ってもらえます。こんな姿勢で書くとあなたの良さが表現でき、伸びやかな論文になります。以下、読みやすく分かりやすい論文＝印象の良い論文を書くポイントです。

1. 聞かれていることに答える

まずは、聞かれていることに正面から答えることです。何となく題意には触れていても、回りくどい表現、分かりにくい文章の論文が多く見られます。

◇問題文

あなたが民間企業等で携わった職務の内容と、その職務を通じて培った、知識、能力はどのようなものか、簡潔に説明してください。

【考えるヒント】

・『形を決める』『形から入る』方法が有効です。問題文を引用しながら、それに対応する形で答の部分を書いていくと焦点が合ってきます。出題に正面から答えている印象になります。

◇参考例文

「私が民間企業で携わった職務は、〇〇関連メーカーでの資材購買である。必要な市場情報を収集・分析し報告すること、数量、価格等、具体的な契約条件について原案を作成

することなどである。一連の職務を通じ、私が培ったのは、調達資材の品質、性能基準の知識であり、また、調達先がグローバルであるため、為替動向や国際市場に関する財務知識も学ぶことができた。以上の知識をベースに、私は、精確さはもとより、複数案を容易に比較検討できる資料の作成能力と提案能力を培うことができた。こうした知識・能力は、組織における最適・迅速な意思決定に寄与するものであり、担当者である私にとって最も重要なミッションと考えたので、特に意欲を持って習得したところである。

(約300字)

※この程度の文章を論文のベースとして用意しておきます。本試験では、出題された問題内容に応じてこの後を続けます。具体的なエピソードを織り込んで説得力を持たせます。

◇その次に想定される設問

- ・『具体的な事例を挙げて・・・・・・〇〇について論述しなさい。』
- ・『その職務経験等から得た内容を、今後、〇〇の職員としてどのように活かしていこうと考えているか論述しなさい。』

2. 平明な文章を書く

難しそうな内容でも、できるだけ平明に分かりやすく書くように工夫しましょう。平明な文章の論文は、あなたの実力を評価してもらえる論文です。

【考えるヒント】

・とにかく、「あるべき論」、「必要だ。」「重要だ。」の繰り返しになりやすいものです。あなたの主張を平明に論述してください。読むだけの内容があるなという印象を持ってもらう論文を目指しましょう。

◇参考例文（やさしいまちづくりと協働）

すべての人にやさしいまちづくりとは、施設や設備のバリアをなくすことだけではない。心のバリアもなくしていくことだと、私は考える。誰でもハンディキャップを背負う可能性がある。だから、いつ自分もサポートを必要とする立場になるかもしれない。それ故、高齢者や障害者が安心して暮らせるまちは、結局、誰もが安心して暮らせるまちだということになる。こうした点について、広く市民の共感を得られれば、協働によるまちづくりは第一ステップを踏み出すことができるようになる。

このように、市民の共感を基礎とした協働によるやさしいまちづくりを進めるため、私は以下3点の具体的な取り組みを行っていくべきと考える。

【考えるヒント】

・シンプルな文章を書く。複文（ひとつの文章のなかに主語と述語の関係が複数ある文）を多用すると文脈がねじれて読みにくくなります。また、主語と述語はなるべく近づけるようにします。

◇修正前の例文

私は、現職では日課として、毎朝就業時間が始まる前に朝礼でメンバー全員が発言をし、その日の業務予定等を確認してコミュニケーションを図っている。

◇参考例文

現職で私を含むメンバー全員が日課としていることがある。それは、毎朝の朝礼で全員が当日の業務予定を確認することである。些細なことかも知れないが、互いの業務情報を共有化することは、職場における円滑なコミュニケーションの基盤だからである。

3. リズムの良い文章を書く。声に出して読み、耳で聞いて理解できる文章

分かりやすい論文は、声に出して読み、耳で聞いて論旨・内容が理解できます。経験者採用試験の論文は、公務員という実務担当者になろうとする就職試験の論文です。例えば、入庁後あなたが決済文書を書くとしたら、論旨や結論が簡潔・明瞭であることがまず求められます。論文試験も同様です。たくさんの論文を採点する試験官にとって印象の良い論文は、リズムよく書かれていて、主張・結論がクリアで、論旨が無理なく繋がっている論文です。いわゆる、論文全体を通して論旨が素直に『流れている（整合している）』論文です。

そこで、いったん書いてみた論文を、声に出して人に聞いてもらいましょう。感想を求め、耳で聞いて分かりにくい部分、つかえてしまう部分があったら、より平明な文章になるように書き直してみてください。適当な聞き役がいなければ、録音して自分でチェックするだけでもやる効果があります。ぜひ、試してみてください。

4. 必ず答案構成をしてから書き出す

いきなり書き出してしまうと途中で苦勞してしまいます。ラフな箇条書でよいので、必ず答案構成のレジュメを作ってから書き始めましょう。問題文をよく読み、盛り込もうと思う内容を箇条書きでレジュメに落とし込みます。

5. 印象に残る決意表明

【考えるヒント】

- ・多くの人の論文の締めくくり方は、謙虚過ぎます。

◆謙虚な締めくくりの文例

このようにして、私は県職務に全力で取り組んでいきたいと考える。

◇参考 印象的な締めくくりの文例

- ・こうした政策の推進には確かに多くの課題がある。しかし、私は大きな政策の実現も結局は職員一人ひとりの熱意こそ原動力であると考え。よって、私はどのような困難があってもあきらめず最後まで遂行する決意である。
- ・来る〇〇年、本市は市政 60 年を迎える。市民と市政に貢献し、その日を自信と誇りを持って迎えらるよう私は全力を尽くす決意である。

6. その他

◇学校のレポートではありません。主語を明確に。

× この点は、何々と思われる。したがって何々であろう。

○ この点について、私は何々であると確信している。したがって何々のように取り組むべきと考える。

◇接続詞を効果的に使う。

言いたいことは何となく分かるのですが、いまひとつメリハリのない論文を多く見かけます。その対策として、接続詞をしっかりと使うと、論理展開が明快になり論文に立体感がでます。逆に、論理的なつながりがはっきりしないと接続詞が使い切れません。接続詞を意識して論述すると主張がはっきりした論文になります。

- ・ かしながら
- ・ 一方
- ・ したがって
- ・ なぜなら
- ・ すなわち 等等

◇筆記具は、できればB以上の濃さのもの。丁寧にはっきり書く。薄い字、小さすぎる字は採点者を疲れさせます。